カンペーン　The Wall
2018年　デジタル　カラー　92分　タイ　日本語字幕付き
監督：ブンソン・ナークプー
プロデューサー：ピヤチャット・ナークプー
脚本：ブンソン・ナークプー
撮影：ウルポン・ラクササド
編集：エカラック・アナンタソムブーン／ウルポン・ラクササド
音楽：パヤット・プーンウィチャイ
美術：ソムチャイ・ワチラロンコン
出演：ブンソン・ナークプー
　　コムチャイ・ミートブン
　　ティラパット・ローハナン
　　ポンシン・セーロー

映画監督のスープ（ナークプーの愛称）は、新作映画のロケハンのため、故郷のスコータイ県とペッチャブーン県を訪れる。監督が幼少期、そして修行僧として十年間過ごした地を、若手スタッフとともに巡る旅である。低予算で制作予定の作品だが、ロケハンを進める中で、監督は自らの生い立ちを回想し、映画人としての半生を振り返っていく。

三人は、監督の実家や、修行していた僧侶の養成施設を訪問する。かつては貧しさのため僧侶になる選択肢しかなかったが、修行僧でありながらも憧れた映画俳優、授業を抜け出して見に行った映画、美しい少女との初恋など、当時の様々な記憶がよみがえる。旅を通して、過去に抱いていた夢や期待、そしてそこに立ち塞がった“壁”を思い起こしていく。

しかし、回想の中でも、監督は現実に立ち返らざるを得ない。ロケハンの最中でも、予算不足やスタッフの離脱など、制作現場を取り巻く厳しい問題が目の前にあるのだ。物語はフィクションとドキュメンタリーが交錯するかのように進んでいく。廃墟となった映画館で、監督は若かりし頃の僧服姿の自分に尋ねられ、自問する。これまで、そしてこれからも、「自分は何のために映画を作るのか」と。

タイ語の作品タイトルに含まれる“カンペーン”とは、“壁”を意味する。少年僧だった自分と少女の間の壁、堅牢な僧侶養成施設の壁、自らの心にあった壁、そして映画制作者として直面する壁など、多層な意味での“壁”が作品を通して表現されている。

ナークプー監督が、過去へのオマージュとして描き出した物語であり、映画作りとは何かを自らの文脈で真摯に問いかけている。